

## 「市長と語ろう！」意見交換会（タウンミーティング）

### 【地域別】柴崎学習館【概要】

日時：令和4年10月23日（日）

13時30分～14時30分

場所：柴崎学習館

#### 1 開会の挨拶

（市長）

こんにちは。皆さんお忙しい中、時間を都合して本日はご参加いただき本当にありがとうございます。私どもも、毎年このような形で皆さんとお話しをしながら、それぞれの地域での出来事、大きな出来事から小さな出来事を聞き、できるだけ市民の一人一人に納得のいくような行政を行ってまいりたい。そのためにも、皆さんから毎年様々なご意見を頂戴したいと思っているところであります。どうぞ、本日もよろしくお願いいたします。

#### 2 意見交換

（司会）

それでは、まず事前にいただいた質問について、市長の清水からお答えさせていただきます。まず、1つ目のご質問です。市長が今後立川にできてほしいと思うものについてご質問いただいています。

（市長）

今後、立川にできてほしいと思うものは、とのお尋ねについてです。本市は、これまで、多くの市民、事業者、さまざまな方のご協力のもと、まちづくりが進められてきており、近年では、都市軸沿道の新たなにぎわいも生まれ、ご協力をいただいた方々には大変、感謝をしているところであります。今後、本市にできてほしい具体的なものについては、差し控えますが、本市では、「にぎわいとやすらぎの交流都市」をまちの将来像として掲げているため、この将来像にふさわしく、また、市民のみなさまが、笑顔になれ、また、健康でいきいきとできる、そうしたものが、今後も立川のまちにできていくことを期待しているところであります。

（司会）

それでは、次のご質問に参ります。今後の立川市の展望、まちのモデルについてのご質問です。それでは、市長、よろしくお願いいたします。

（市長）

今後の立川市の展望に関するお尋ねについてです。現在、本市では、目指すまちづくりの将来像として、「にぎわいとやすらぎの交流都市」を掲げています。具体的には、多摩地域における交通の要衝である立川は、JR立川駅を中心に、にぎわいを見せています。一方、砂川地域を東西に広がる農地や玉川上水・多摩川・残堀川、日本を代表する国営昭和記念公園など、自然や緑といった、うるおいに満ちた空間が身近にあり、日々の暮らしの中でやすらぎを感じることができます。このように、にぎわいとやすらぎを兼ね備えた立川の特徴を踏まえ、市民やまちを訪れる多くの方たちの交流により、立川らしい新たな価値を創造しながら、多摩地域の中心のまちとして、さらに発展し続けることを目指している

ころです。

(司会)

それでは、次のご質問に参ります。南武線高架化に係る費用と経済効果についてのご質問です。

(市長)

南武線連続立体交差事業にかかる費用については、東京都による事業で、現在、事業化にむけて、構造形式や施工方法の検討作業を進めている段階であり、全体の事業費は示されておりません。一方、連続立体交差事業の事業効果は、数多くの踏切を同時になくすことで、円滑な道路ネットワークを実現し、交通渋滞を解消すること、新たに生み出された空間を活用することで地域の利便性や安全性が向上すること、鉄道沿線のまちづくり事業と一体的に進めることにより、総合的な都市基盤整備に貢献することなどが示されております。具体的には、踏切事故がなくなることや災害時に緊急車両の通行が妨げられず、市民の生命が守られることなどが考えられます。

(参加者)

今の南武線の高架のことですけれども、予想では30年後ぐらいというようなお話で、西国立まちづくり計画というものが、先日何回かに分けて会合があったんですが、30年後といますと世の中どうなっているか分かりませんよね。だから、基本計画は分かりますけれども、その中で、時代に応じて交通網とかいろいろなインフラは考え直していく必要があるのではないかと思うのですが、先日の話合いのときには決めたことはなかなか計画変更しないようなご答弁をいただいたので、やはり時代の流れに応じて環境整備は変えていくということは、いかがでしょうか。

(市長)

このことにつきましては、中心となるのがJRでございますので、幾ら私どもが意見として申し上げても、なかなかこれが動くというのは難しいことだろうなと思っております。ただ、取りあえず30年という話はしたんでしょうけれども、人口が減ってくる、そして子どもたちがどんどん少なくなってくるという状況が来る可能性があるわけですね。私たちがまちをつくって、住みやすいものにしていこうという動きとか、そういうものが必要でなくなるという議論もあるわけです。今のところ、何とか人口が少しずつ増えていくので、様々な住みやすいものをつくったり、引っ張ってきたり、いろいろしておりますけれども、それがなくなるなんていうことにならざるを得ません。ですから、なかなか10年、20年、30年後の立川の話は難しいところがございます。

(参加者)

そういう計画が、市の方から発表があったんですよ。でも、30年後には変わっちゃうでしょうということで、5年後とか10年後に状況に応じて計画を見直すということはしていただけですか。

(市長)

それは、多くの市民の皆さんの要望でありましたら、あるいは立川市の財政状況がそれを許すかどうか、あるいは近辺の方々に一緒にやりましょうと言ってもらえるかどうかとか、たくさん問題がありますので、今市長の口から答えるのは難しいです。

(参加者)

いやいや、市長、そうじゃないんですよ。先日、西国立まちづくり計画の発表があった

んですよ。それで、こういう計画をしますと。駅前の広場を造ったり、タクシー場を造ったり、バスターミナルを造ったり。でも、30年後といたら交通インフラもどうなっているか分からないですよ。その時代になったとき、例えば南武線が高架か地下か分かりませんけれども、今の計画を5年、10年後のインフラを見ながら修正していくとか、そういうことはやっていただけるんですかということなんです。

**(市長)**

市民の皆さんのご協力をいただけるということであるならば、当然やっていけると思っています。ただ、今も話しましたが、大変難しいものがありますので、資金はどんどん減る可能性がありますね。そうすると、また厳しいなど。きちんとしたことを今、この席では、まだ表することはできないと思っています。

**(参加者)**

私が言っていることと、市長と、ちょっと違うんです。見直しをしていただけるかどうかという。高架になりますよね。そのときに、いろいろインフラは変わりますよ。時代も、そのときで変わっているわけですよ。そのときに、計画を立てたらそのとおりにやるんじゃなくて、その時代に合わせてインフラ整備をしていただけるのかという、決まったらこのとおりだ、じゃなくて。

**(総合政策部長)**

現時点で計画しているものというのは、あくまでも今時点ですから。

**(参加者)**

はい。金額も全然違うわけですよ。

**(総合政策部長)**

また、例えば本当に30年後なのか、それが早くできるかもしれないですし、その時点時点で計画というものは最善のものに当然見直す必要はあると思います。今の計画をそのままずっと変更せずに行き、時代に全く合わない陳腐なものが出てしまうといったことはないように、皆さんとご議論しながら、きちんとして整合を持ちながらやっていくというのは私たちの使命だと思っていますので、よろしくお願いいたします。

**(司会)**

それでは、次の質問です。中学校の補食についていただいています。「以前、立川一中PTAから、午後の補食システムの要望をした際、市から、学校給食は昼食時以外の提供は行っていないという回答があったのですが、私たちは学校給食について話しているのではなく、注文給食のように、希望者に補食を購入できるシステムができないものかということとを問うています。このような返答で終わらせてしまえば、前に進むことなく、ただ現状のままでよいと切り捨てられたように思います。子供たちの発育、発達が一番伸びるこの時期には、補食の大切さ、食育が必要です。食べたいと思っている子供が食べられるシステムができれば、そして特に負荷のかかるスポーツトレーニングをやっても、それを助ける栄養を補うことが必要です。どうにか部活動前、または後に補食はできないものか。買っても駄目、おにぎりのように補食を持ってきて駄目、現在の生徒は補食ができないシステムの中にいます。子供たちに必要なことを法で縛ってしまえば、子供たちの未来につながらないと思います。私たち大人にできることは、食育の大切さ、補食がどのように自分たちの体づくりに役立っているかを知り、立川の未来の子供たちにしっかり伝えることです。ほかでやっていないことを立川で。私がよく子供たちに伝えてきた言葉です。

できるかできないのかではなく、やるかやらないのかだと。立川はぜひやってみようという力強い判断に期待したいと思います。」

(市長)

中学校における補食についてでございます。以前、回答をさせていただきましたとおり、学校給食法に記載の学校給食実施基準には、「学校給食は昼食時に実施されるものとする」とあり、昼食時以外の提供は行っておりません。ただ、そのようなご意見があることを承知いたしましたので、改めて私から教育委員会にお伝えさせていただきます。

(司会)

それでは、次の質問に参ります。西武バスのダイヤについてご質問いただいています。「西武バスについて、平日・土曜日の最終便が14時30分頃となっている。最終便をもっと遅い時間にし、本数を充足できないか」というご質問です。

(市長)

お問い合わせの件は、西武バス立72系統のことだと思われませんが、バス事業者によると、この路線は、平成19年度をピークに利用客数が6割程度減少し、ここ数年は約2,000万円の赤字が続いているようでございます。これまで市民生活に影響が出ないよう、運行を工夫し努力を重ねてきたようでございますが、コロナ禍により、やむなく減便とし、現状では、本数拡充等は難しい状況であると伺っています。ただし、市民の皆様が大変ご苦労されている状況については、改めて、地域公共交通会議でお伝えしてまいりたいと考えております。

(司会)

それでは、次のご質問に参ります。道路上のごみについてご質問いただいています。「富士見町周辺の道路、歩道、残堀川遊歩道にポリ袋のごみがよく落ちている」ということです。

(市長)

市で管理している道路は、常に道路パトロールを行っており、道路上にごみ等がある場合は、適宜、回収しているところです。しかしながら、ごみを出すにあたっては、収集までの間に風で道路に飛ばされ散乱する場合もございますので、市民の皆様には風で飛ばされないようなご配慮もお願いできればとも思っております。

(参加者)

今の質問は、富士見町の自治会の中で出たんですが、パトロールのお話、今市長からお答えがありました。私、自転車で通勤するときに、歩道側の植え込みのほうによくごみがありまして、車で通ると見えないだろうと思うんですね。ある位置に定期的に置いてあるので、常習の方がいらっしゃるんでしょうけれども、そういうことがありますので、車だけでパトロールということでは見逃しも見られるのかなということで、もうちょっと気をつけていただければと思ひまして、よろしく願いいたします。

(総合政策部長)

今のお話、パトロールはどうしても車になってしまっているところはありますので、そういう常習的なところ等がもしあれば、具体的な場所を後ほど教えていただければ、パトロールするときに担当が下車して見るなり、自転車で通るほかの職員がいたりしましたらそのところを見てもらうように、少し声かけをしていきたいと思ひます。ですので、どの辺りが特にひどいかということも教えていただければと思ひます。よろしく願いしま

す。

(司会)

それでは、次のご質問です。富士塚公園のフェンスについて、いただいています。「富士塚公園のフェンスが古い。学童が近く、危険なので、新設してほしい。」

(市長)

富士塚公園につきましては、公園中央にある築山に、鳥居、社、階段などが設置されています。頂上の社には、賽銭箱やしめ縄が設置され、神事にまつわる施設であることから、政教分離の観点から対応が難しい状況にあります。また、築山の石積みの上にある既存のフェンスを残し、石積みの下に新たにフェンスを設置し、築山全体を囲むことも検討しましたが、通行空間が狭まり、公園が利用しづらくなることから結論に至っておりません。なお、今後、鳥居や社などの撤去がされた場合には、築山の撤去など対応は可能と考えておりますので、必要に応じて検討を進めて参ります。

(司会)

では、事前にいただいた質問については以上となります。そのほかのご意見、ご質問がある方は挙手をお願いいたします。

(参加者)

歴史民俗資料館のことなんですけれども、インターネットで調べますと、大体昭島との境に、土地をあそこの方を寄附したんで造ったのは分かるんですが、例えば友達が来たときに立川を紹介するのに、歩いて10分以内ぐらいのところにあれば、例えば私から言うと、前の市役所の跡地ですね。あそこら辺に築山みたいなものがあって、全部を移転するんじゃなくて、定期的に、私は毎週行っているんですけれども、定期的に展示物を変えているんですよ。今、インターネットで調べますと、収蔵庫が満杯で困っているという話もあるので、定期的に変えるような展示物を収容できるぐらいのスペースをあそこに造って、どっちかという今あるあその場所は収蔵を主体にした施設にして、常時展示するのは駅の近くにあそこだと、駅から五、六分で行けますよね。と、私は前からそう思っているんですが、今日初めて市長さんに、既にいろいろなそういう苦情が出ている話はインターネットで出ていますから分かるんですが、具体的に一番問題となっているのは、収蔵庫と展示室を分けたら困るという。私としては、車で運べば、運ぶ人は、あそこは2人しかいないですから、そういうときは応援の人が市役所から行って、車に積んで運ぶ必要があるんですが、一番いいのはあそこを収蔵庫にしてしまって、常時展示は市役所の跡地辺りにすると。そうすれば、駅から近いですから、来た人にすぐ立川のことを説明できるんですが、今の状況ですと、バスに乗って行くとか、歩いて行ったら年寄りですと30分はかかっちゃいますね。ということで、それを早急に考えていただきたいなど。前からそう思っていて、いろいろ聞くと、立川で、そういう人は多いです。あそこへ行っている人は。展示はどこかもっと駅の近くに移すべきだという意見を持っている人は、大勢います。私が代表で言うわけじゃないんですけれども、ちょっと考えていただきたいなということです。

(市長)

今の歴史民俗資料館の今後のことについてでございますが、もっと便利な場所に移転できないかというお話でございます。このことについては現時点では白紙、どうするかは今後考えてまいりますので、よろしくをお願いいたします。

(参加者)

ここに、インターネットを見ると意見が出ていますね。「もっと便利な場所にすれば利用者は増える」というのがトップにあるんです。インターネットに、今までのあそこに関するいろいろな意見があるんですね。それが、まとめてインターネットに出ています。一番問題なのは、「もっと便利な場所にすれば利用者は増える」というのがトップです。それから、否定的な意見ですが、「収蔵スペースと展示スペースが同じ場所でないと困る」、これはちょっと分からないですよ。一緒にあれば便利ですけども、今は車の時代ですから、定期的にあそこは変えています。毎月行くと、1か月に1回ぐらい展示物を変えているんですね。だから、もっと立川市の市役所辺りにそういう施設を造って、1か月ごとに運んで展示を変えればいいわけですね。向こうは収蔵庫、私はかなりいろいろなものを寄附しているんですけども、最近は寄附しようと思っても、倉庫が満杯で大きいものは受け取れないと言われているんですよ。私も、毎月行っていますからね。そうすると、私が行ったときに、ほかの人がいたことは一回もないです。10年以上毎月行っていますけれども、やっぱりあそこはへんぴすぎるんですよ。だから、展示室だけはせめて市役所の跡地ら辺に造って、向こうは収蔵スペースとして置いてもらえばいいと思うんですね。私は前からそう思っていて、そういう意見はあそこへ行っている多くの人が持っています。ということをお願ひしたいと思ひます。

**(総合政策部長)**

今、歴史民俗資料館は、市に1つある皆さんがお使いになる施設ということで考えていまして、そのあり方、どこの場所に置くのが一番いいのか、どれぐらいの規模にしてこれから維持していけばいいのかというところで、今いろいろ考えている最中でございます。その中で、歴史民俗資料館の、いわゆるこれからのあり方、今おっしゃられたような内容、いろいろな方々の意見を聞きながら、今後どうしていくのかというのを歴史民俗資料館でまとめていきます。建物の収蔵スペースが今かなり厳しい状況で、これから今の収蔵庫をどうしていくのか、大きくしていくのか、また場所を変えてほかの場所で、今ちょうどいろいろ言われているのは、仮に多摩川が大規模な氾濫を起こしたときに、富士見町であれば、あそこは坂がありますけれども、浸水ということで考えれば、もしそういう状況が起こったときに、物すごく貴重な収蔵物が水害に遭ってしまう可能性もあるかもしれない。そんないろいろなことを踏まえながら、立川市として、どこにどういう施設を、どういうふうこれから維持していくのかというのを今考えていますので、その中で皆さんのご意見を踏まえて決定をしていくことになってまいります。まだこれから先ですので、市長が先ほど言われたように、現時点ではどうしていこうかというのは白紙で、皆さんからそういったいろいろな意見を聞きながら考えていきたいというのが今の市の状況でございます。

**(参加者)**

本日初めて参加させていただいているんですが、実際に若い人、例えば10代、20代ぐらいの人の考えを取り入れるための何か施策とかをやっているのか。そして、実際に、本日、私はこういった会があるというのを初めて知って参加させていただいたんですけども、具体的に若い方たちにそういった声を届けるためにどういったことをされているのかなというのをお聞きしたいです。

**(総合政策部長)**

ご意見ありがとうございます。我々としても、ぜひ若い人の意見を聞きながら進めたいと考えています。令和7年度から10年間の計画をこれから策定していきますが、そ

の中の主役になるのは、若い方々です。若い方々が主役になり、主体となって動いていくこととなります。当然、いろいろな世代の方はいらっしゃいますけれども、若い人の意見は取り入れながらやっていきたいというのは、今考え方で持っています。ただ、お見えになっていただいて、こうやって直接意見を聞く機会がなかなかないところで、こういう集まりを催しても、どうしても日曜日のこういう時間というところで、夜間の開催もありますが、若い方は集まっただけない。いろいろと直接ダイレクトメールのような形で通知を差し上げて、ぜひ来ませんかといったこともしていますが、やはり足を運んでいただくのは非常に難しいところが今の若い方々はあると思うので、できるだけSNSを使いながら、自分の移動する時間、時間を惜しまず何か意見があればそこから集めるようなことも考えていきたいですし、若い方だけの意見を聞くワークショップみたいなものも少し考えていきたいと思います。ですので、ぜひたくさん意見をこれからもお寄せいただくと我々としては本当に助かりますし、歓迎いたします。よろしくお願いいたします。

(参加者)

あともう1点よろしいでしょうか。SNSなどを使ってという話が出たと思うんですけども、その中で、今、国営昭和記念公園のほうのSNSも一応あるようには見受けられるんですが、正直若い人がやっていないで、もっと30代、40代の方がやっているのではないかなというふうに内容を見て思ったんですね。実際、SNSの運営などをするにしても、若い人に向けての内容じゃないと正直響かないというか、あんまり魅力などにも感じないなと思いましたので、そういった部分でもっと若い方に向けての施策のほうも一緒にやっていただけると、こっちとしてもどんどん魅力に感じて参加したいなというふうにも思いますので、お願いしたいと思います。

(総合政策部長)

ありがとうございます。実際、昭和記念公園にしても、我々の市役所から発信する内容にしても、若い職員が関わって発信をしようとはしていますが、どうしても堅くなってしまふというところがあって、若い方にメッセージがストレートに飛んで行かないのかと思います。いろいろなことがあると思いますけれども、若い方々に我々のほうの事業にも参画していただいて、直接我々の側に立ち入っていただいて、そこからメッセージを発信していくような取組であったり、とにかく若い方に響くようなやり方、そういったものは工夫してやっていきたいと思います。特に、今後の10年間のいろいろなことを考えていく中では、前段階として若い方の意見をたくさん聞いてつくり込みながら、またご高齢の方とか子供たち、いろいろな考え方をミックスさせていいものにしていきたいということもありますので、ぜひ一緒になって何か考える機会をつくっていきけるようにしていきますので、お声を出していただければと思います。よろしくお願いいたします。

(参加者)

今年度の市長と語る会、コンプリート、全部参加しております。南武線の高架化について質問させていただいたのが、私でございます。私は現在、立川で市議を目指している立場ではあるんですが、南武線の高架化、先ほども30年ぐらいということと、見直す必要もあると言われたんですが、今度は私が、議論の着眼点としては、高架化がいいよねというのを前提で質問をします。いいよねということが前提だった場合に、どういったことが障害になっているのか。逆に言うと、どういう障害を越えれば実現できるのか教えてください。

(総合政策部長)

高架化をするに当たっては、まず、いろいろな都市計画の問題もありますし、様々な面をクリアしていかないと、計画というのは実行できないところがあります。南武線が通っているのは立川市であり、隣に国立市があって、市ごとでもまた決定の過程が違ってきています。そういったもの、一つ一つを合わせながら実現をさせていくところがまず大変だと思います。取りまとめは東京都がやっていきますが、その辺のまず行政側の意見を合わせながら事業を進めていくというところの大変さがあります。それから、これはお金の面が非常にかかります。当然高架化にすることによって、費用面がすごくかかってきます。これは、我々市側が負担するところ、東京都の負担するところ、国が負担するところ、当然JRも負担していかなくてはならない、そういったお金の面をどのように、経費を見ていかなければいけないか。そういったところも併せながら、年次計画を立てながらやっていかなくてははいけない。その辺を一つ一つ解決させながら進めていくというのは、多分非常に年月のいる状況だとは思っています。長い年月、高架化の計画があると言われてきましたが、ここで具体的に少しずつ動き出してきたというところで、これから先、先ほど言われた30年というのがもしかしたら20年になるかもしれない、15年になるかもしれない、そういったところはこれからの進み具合によって変わってくるのかなと。ただ、大変なのはそういった物事、環境面であったり、いろいろな問題を一つ一つクリアしながら皆さんにご理解いただいて進めていく、そういった手続、そういった事業展開が多分非常に大変だと考えています。

(参加者)

ありがとうございます。私は視覚障害がありまして、そういった視点で考えると、政治家の中には、高架化は予算もかかるし、反対をされる方もいますが、一つバリアフリーという視点で考えると、先ほど市長も言っていたように、踏切がなくなることによって視覚障害者、私は白いつえを持っていますが、安心して歩けるようになりますし、手押し車を押しているおじいちゃん、おばあちゃんとか、ベビーカーを使っている赤ちゃんとかお父さん、お母さんというのも動きやすくなります。あるいは渋滞の緩和にもつながるので、意外と都市化というのは、我々障害当事者、私はサンプルのひとつですけれども、視覚障害の私から見てもバリアフリーにつながっているので、意外と悪くないかなと思っていますところがあって質問をしました。引き続き、勉強をさせていただきます。ありがとうございます。

(参加者)

先日、自治会の加入世帯数調査票というのが、いつも市民協働課から来るんですけども、今回その中に、建物の所有者、土地の所有者、また賃借料が幾らかというような項目があったんですね。その中で、我々の自治会、私の自治会も、私のやり方が悪いのか、世帯数が今減っております。町会費で家賃を支払っていると、大体収入の半分ぐらいは家賃で出てしまうわけですね。活動にもいろいろ支障をきたしているんですけども、この部分での補助金が出るようなうわさをちょっと耳にしたんですが、そういう計画があるのかどうかお聞きしたいなと。

それと、私は学運協の委員をやっているまして、先日小学校の日光の移動教室の旅行業者を決めるプレゼンがございました。今、コロナ禍で撤退している旅行会社はかなりありまして、ある学校では、4つの旅行会社に申請したところ、2つの会社しか来なかったと。



もう1つの学校は、全然来なかったと。そういう中で、旅行会社が決められないという状況が出てしまいました。そういったことで、行政のほうでもう少しそういう部分があった場合にはバックアップというか、助言をしていただけたらありがたいのかなと思いますけれども、その点はいかがでしょうか。

**(総合政策部長)**

最初の自治会の補助金が出るのかというお話でございますが、具体のところは、担当から私も聞いてはいません。ただ、自治会を応援していく中で、町会の建物をお持ちになっているところと、借りていらっしゃるところとか、いろいろ形態が違っているの、特に加入世帯が少なくなってきて、それを維持するのが非常に厳しいというところの話が届いているようなので、何らかの支援の方策を検討するための資料として調査しているのだと思います。今後、町会費を払っていくのが負担だから入らないとか、いろいろなご意見もありますので、自治会のあり方全体の中で皆さんのご負担にならないように、ただ、持続していかなければ、我々と一緒に自治会の皆様もいろいろ関わりがございまして、そこが苦しくならないような、そういった自治会を応援する、支援をするというところのスタンスは変わりません。ですので、何らかの形でまた考えているかと思っておりますので、その際にはまた事前に自治会の皆様にアナウンスがあるかと思っておりますので、それまでお待ちいただければと思います。

それから、旅行会社の件でございます。私もそこまで状況が把握できていませんが、確かに、ここ数年はコロナの影響で旅行会社自体の運営が厳しいので、いろいろ業態も変えながらやってきていると思っています。ただ、基本的には今まで旅行代理店さんに修学旅行というのは大きく担っていただいていた部分でもありますし、旅行会社としても大きな収益の柱にはなっているのかとは思っておりますので、どういった形であれば修学旅行の企画、立案みたいなどころに関わっていただけるのか、調査をしながら、できるだけ多くの旅行会社が参加できるようなことを考えてもらうように、教育委員会なりにそこは言っていきたいと思っております。ご意見ありがとうございます。

**(参加者)**

本日参加させていただいて、改めて立川市の皆さんからいろいろな意見が出ていて、立川市の皆さんは非常によく考えていてすごいなと思います。市の皆さんに質問です。立川市の皆さんは、なぜこんなにたくさん考えていて素晴らしいのでしょうか。教えてください。

**(総合政策部長)**

非常に、お褒めの言葉をいただきありがとうございます。我々は、立川市をどのように発展させながら、皆さんと一緒に築き上げていくのか、いい市であれば、私たちも働く魅力もありますし、働きがいがありますので、市民の皆さんにいいと思ってもらえる、そういったまちを目指して取り組んでいる結果だと思っております。皆さんから、よい市だとお褒めの言葉をいただければ、我々もより一層働いていきますので、たくさんそういったお声をいただければと思います。よろしく願いいたします。

**(参加者)**

ありがとうございます。ただ一方で、後ろの方が言っていた10代、20代、私は33歳ですけども、10代、20代の方はここにいないというのもあるので、引き続き考えていきます。ありがとうございました。

### 3 閉会の挨拶

(市長)

今日は、大勢の皆さんにお集まりをいただき、私どもが気づかないようなことまで様々な話を頂戴いたしました。皆さんからいただきましたご意見を参考として、今後も市民が住みやすい、そんなまちをつくり上げていきたいと存じております。今後も様々なご意見をいただき、ご一緒に、立川のまちがよくなっていく、住みやすいまちになりますように、ご協力をお願い申し上げながら、本日の終わりの言葉とさせていただきます。どうもありがとうございました。